

(様式2)

令和3年度 自己評価表

学校名 湯梨浜町立東郷小学校

校長名 本田 弘樹 印

1. 学校の教育目標

- 特別活動を中心にした「主体的、対話的で深い学び」により「自分の学びを高めようとする」児童の意欲向上の推進と、初年度となるGIGAスクール構想の円滑な始動
- チーム対応による生徒指導力の向上と特別支援教育の充実
- 特色ある「ふるさと教育」の推進

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

- (1) 学ぶ意欲の向上と確かな学力の向上(学びの力づくり)
 - ・特別活動を中心とした授業改善の推進
 - ・GIGAスクール構想の本格的な実施
- (2) 支え合い高め合う人間関係づくり(豊かな心づくり)
 - ・自分も友だちも大切にする温かい人間関係にあふれた学級づくり
 - ・児童理解を深め、いじめや不登校が生じないような学校づくり
- (3) 健やかな体づくり(健康な体づくり)
 - ・健康の維持・増進に向けて、自ら考え実践する力の育成
 - ・自他の命を守る力の育成(新型コロナウイルス対応、怪我の対応、交通安全等)
- (4) 地域に根ざし開かれた学校づくり
 - ・「ふるさと東郷」における体験活動・表現活動の充実
 - ・地域人材活用により地域に学ぶ教育活動の充実
- (5) 業務改善の推進
 - ・職員が安心して休むことのできる環境づくり
 - ・「提案・工夫・アイデア」を共有しながら行事や日常の業務の見直し

(様式2)

3. 年度当初の評価項目

評価項目	現状	めざす姿	具体的方策	評価方法
(1) 学びの力づくり	○まじめに物事に取り組み、素直で心優しい児童が多い。 △自分の思いや考えを豊かに伝える力が弱い。 △なかなか型を破れず、挑戦できない児童が多い。	①自己の思いや考えを豊かに表現できる児童【主体的な学び】 ②仲間の思いや考えを共感的に受け止め、ともに磨き合える児童【対話的な学び】【深い学び】	①特別活動の学級会を中心に研究を推進し、児童が能動的に動き出し、協同して課題解決に向かえる場の設定。 ②全教職員が研究授業を行い授業改善 ③一人一端末を活用し児童の多様な考えを引き出す教師のコーディネート。	・授業公開(随時) ・授業研究(全学級) ・児童アンケート ・保護者アンケート(参観日) ・ICT教育研修会
(2) 豊かな心づくり	○目標に向かってみんなが一つにまとまり、集団の力を伸ばしていける良さがある。 △自己有用感が低い児童が多く、友だちの言動に流されやすい。	①多様な考えを出し合い、認め合うことで、協同して課題解決に向かえる児童集団 ②個々の良さや発想が大切にされ、能動的に動き出せる児童集団	①児童の自治能力を育む特別活動の推進 ②あいさつ運動、児童のボランティア活動の機会を増やした自尊感情の醸成 ③報連相の徹底、効果的なケース会議・関係者会議の実施	・児童・保護者アンケート ・Hyper-QU ・あいさつ運動の外部評価 ・児童のボランティア活動数
(3) 健康な体づくり	○体育や業間運動などに意欲的に取り組む児童が多い。 △長時間ゲームをしたり、基本的な生活習慣が身につけていない児童がいる。	①自分も友だちも大切にしながら、毎日のくらしを大事にする児童 ②安全に行動できる態度や基本的習慣を定着する力を持つ児童	①「くらしのやくそく」(寝る時間・起きる時間・メディアの時間)の普及 ②軽微な怪我も管理職・保護者へ報告 ③柔軟なコロナウイルス対応	・生活アンケート ・学校便り等による啓発 ・学校保健委員会の効果的な運用
(4) 地域に根ざし開かれた学校づくり	○学校運営協議会を中心に地域との連携を図っている。 △「ふるさと教育」が分掌に位置付けられていなかった。	①学校運営協議会と地域学校協働活動が密接につながり、「地域とともにある」学校づくり	①学校運営協議会の効果的な運営 ②新たな支援ボランティアの工夫 ③「ふるさと教育」の明確な位置づけ	・学校運営協議会のPR ・「ふるさと教育」実践のまとめ作成
(5) 業務改善の推進	○生活時間の見直しなど業務改善の取組を進めている。 △時間外在校等時間が80時間を超える職員がいる。	①職員が安心して休むことのできる環境づくり ②一人で抱え込まず、組織的対応のできるチーム東郷の推進	①柔軟な学年経営の取組 ②若手を全職員で育成する雰囲気づくり ③校内衛生委員会の実施	・ストレスチェックの活用 ・年休取得日数 ・時間外勤務時間